

# 重症心身障害領域の保育士の専門性育成とその課題 —テキストマイニングによるインタビューの分析—

鹿島 房子

## Development of Expertise for Nursery Teachers in the Field of Severe Motor and Intellectual Disabilities and Its Challenges — Analysis of Interviews through Text Mining —

KASHIMA, Fusako

### 要旨

重症心身障害領域の保育士の育成課題を分析するために、テキストマイニングを行った。対象は国立病院機構の保育士で、インタビュー項目に基づき面接を行った。分析はKHcoderで頻出語彙を抽出し、共起ネットワーク分析を行った。その結果、「自分自身が成長できたと思える出来事」では、「他職種や保護者への発信力」「個別支援計画」「療育や日中活動」、「育成をしてきた中で、保育士の成長を感じた出来事」では、「保育を説明できる力」「指導者によるサポート」「個別ニーズの把握と対応」、「重症心身障害領域の保育士の専門性をどう考えるか」では、「幅広い年齢や障害への対応」「個別ニーズの把握」「団体での研修や研鑽」、これらのカテゴリーに関する言葉の集合が見られた。保育士育成の課題は、利用者への直接支援を基盤としつつ、自らの保育を言語化し発信できる力をつけられるよう、指導者が支える体制を強化することにあると考える。

### キーワード

重症心身障害、保育士、育成、課題、テキストマイニング

### Abstract

We conducted text mining to analyze the challenges in the training of childcare workers in the field of severe motor and intellectual disabilities. The subjects were childcare workers from the National Hospital Organization, and interviews were conducted based on predetermined interview items. Frequent vocabulary was extracted using KHcoder, and a co-occurrence network analysis was conducted. As a result, for categories like "Occurrences that make me feel my personal growth," for "Ability to express opinions to other professionals and parents and guardians," "Individual support plans," "therapeutic education and daytime activities," and "Occurrences that make me feel my personal growth as a childcare worker," for "the ability to explain childcare," "support by instructors," "understanding and responding to individual needs" and "how to consider the expertise of childcare workers in the area of severe motor and intellectual disabilities," for "dealing with patients of different ages with various disabilities," "understanding individual needs," and "group training and study," a collection of words related to above categories was observed. It is believed that the challenge in training childcare workers lies in strengthening a system where instructors support them to be able to articulate and clearly express their opinions on their childcare approach through daily practice of providing direct support to users.

### Key words

Severe Motor and Intellectual Disabilities, Nursery Teacher, Development, Challenges, Text Mining

## 1. はじめに

筆者は、過去の研究において、重症心身障害領域における保育士の専門性として求められるものは、「個々の重症児・者のニーズを的確に捉え、彼らの生活に寄り添い、支援が行われることである。」とした<sup>1)</sup>。その専門性に影響を及ぼす要因として、「非言語による意思の表出やバイタルサインの読み取りによる意思や健康状態の把握ができること」、「関連職種の専門性を理解したうえで連携できること」、「幅広い年齢層の保護者への対

応ができること」、「重症児・者やその家族との直接的な関わりにより感動や学びを得て自らの成長へつなげられること」を導き出した<sup>1)</sup>。

本研究では、それらの専門性を身につけた保育士を育成していく現場において、実際にどのように育成が行われているのかについて、重症心身障害の入所施設に関わる保育士を指導する立場の保育士にインタビュー調査を行い、重症心身障害領域の保育士という、人材育成の課題について研究を行った。

## 2. 研究の目的

重症心身障害の入所施設に関わる保育士を指導する立場の保育士にインタビュー調査を行い、重症心身障害領域の保育士の人材育成の課題を探ることを目的とした。

## 3. 研究の方法

### 3-1 対象

国立病院機構の病院に勤務する主任保育士で、かつ複数の職場で保育士育成の経験のある5名とした。時期は平成30年9月上旬に行った。

### 3-2 手続き

方法は、一人につき40分、インタビュー形式で行った。人材育成の課題を探るために、インタビューは3つの設問で構成した。具体的には、「自分自身が成長できたと思える出来事」、「育成をしてきた中で保育士の成長を感じた出来事」、「重症心身障害領域の保育士の専門性をどう考えるか」について、自由に発言を求めた。インタビューの内容については、対象者の同意を得たうえで、すべてICレコーダーを用いて録音した。

### 3-3 解析方法

ICレコーダーにて記録した各対象者のインタビューは、事後に記述データに変換した。データ分析は、KHcoderを用いて頻出語彙を抽出し、それぞれの語彙の関係性を明らかにするために、共起ネットワーク分析を行った。

## 4. 研究倫理に関する事項

研究の目的や内容に加え、研究への参加は任意であること、答えたくない質問があれば回答を拒否できることについて説明を行い、研究の同意を得た。なお、本研究は聖徳大学のヒューマンスタディに関する倫理委員会へ申請書類を提出し承認を得た（承認番号H29U015）。

## 5. 結果

### 5-1 「自分自身が成長できたと思える出来事」のインタビュー分析結果

「自分自身が成長できたと思える出来事」の質問に対するテキストマイニングで得た結果を、表1と図1に示した。KHcoder前処理の結果から、総抽出語数は7,259（使用数2,537）、異なり語数は1,053（使用数796）であった。表1は頻出150語の内、7回以上使われた語を記載した。

次に、関係する語句を明らかにするのに共起ネットワーク分析の結果を図1に示す。

なお、共起ネットワークを作図する際には、出現数の多い語ほど大きい円で描画し、比較的強くお互いに結びついている部分を分けてグループとして表示させるよう設定した。

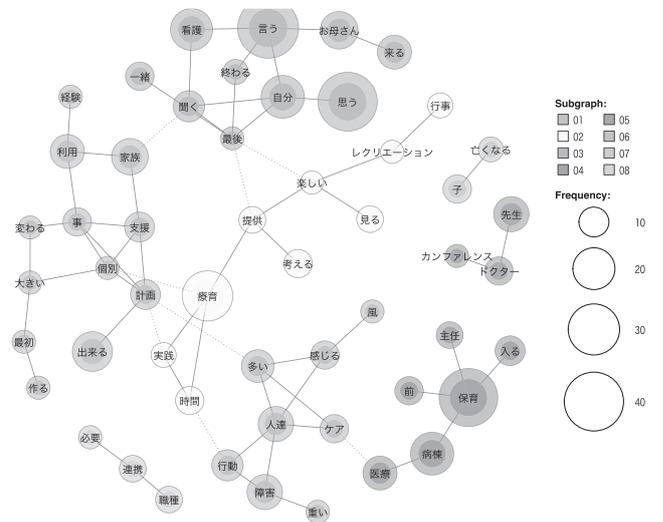
「自分自身が成長できたと思える出来事」の共起ネットワー

表1 「自分自身が成長できたと思える出来事」に関する頻出150語（7回以上使われた語を記載）

順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度
1	言う	42	17	医療	13	33	子	9
2	思う	40	18	来る	13	34	事	9
3	保育	39	19	利用	13	35	時間	9
4	療育	29	20	多い	12	36	前	9
5	人	22	21	なんか	11	37	見る	8
6	自分	21	22	行動	11	38	主任	8
7	病棟	21	23	聞く	11	39	職種	8
8	看護	20	24	違う	10	40	提供	8
9	勉強	19	25	計画	10	41	連携	8
10	今	18	26	支援	10	42	行事	7
11	出来る	18	27	入る	10	43	実践	7
12	お母さん	16	28	ケア	9	44	終わる	7
13	家族	15	29	ドクター	9	45	大変	7
14	障害	14	30	一緒	9	46	亡くなる	7
15	人達	14	31	感じる	9			
16	先生	14	32	考える	9			

ク分析では8個のカテゴリーの表出が見られた。代表的なカテゴリーの特徴を以下に示す。

頻出語の1位の「言う」2位の「思う」、は、「看護」や「お母さん」などの語彙と結びついており、「他職種や保護者への発信力」に関する言葉の集合が形成されていた。また、「出来る」や「計画」、「支援」などの“個別支援計画”に関する言葉の集合が形成されていた。さらに、頻出語4位の「療育」は、「提供」や「考える」などの語彙と結びついており、“療育や日中活動”に関する言葉の集合が形成されていた。



(図1) 「自分自身が成長できたと思える出来事」についての共起ネットワーク

### 5-2 「育成をしてきた中で、保育士の成長を感じた出来事」のインタビュー分析結果

「育成をしてきた中で、保育士の成長を感じた出来事」の質問に対するテキストマイニングで得た結果を、表2と図2に示した。KHcoder前処理の結果から、総抽出語数は11,149（使用数3,592）、異なり語数は1,271（使用数963）であった。表2は

頻出150語の内、10回以上使われた語を記載した。

表2 「育成をしてきた中で、保育士の成長を感じた出来事」に関する頻出150語（10回以上使われた語を記載）

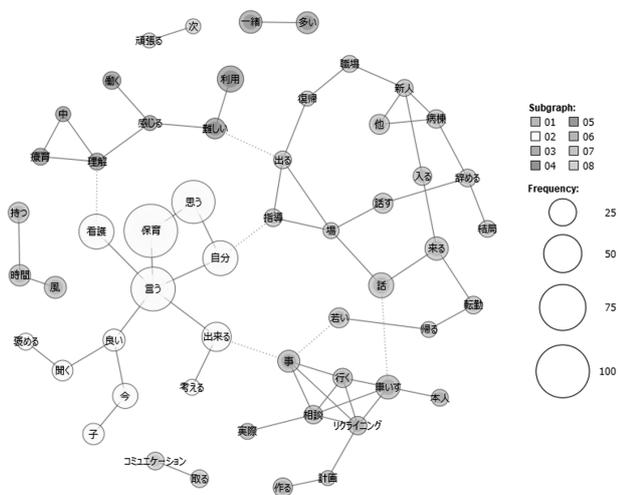
順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度
1	保育	101	17	事	16	33	行く	12
2	言う	68	18	多い	16	34	作る	12
3	思う	65	19	風	16	35	仕事	12
4	看護	42	20	良い	16	36	リクライニング	11
5	自分	42	21	子	15	37	相談	11
6	出来る	29	22	時間	15	38	入る	11
7	人	29	23	持つ	14	39	病棟	11
8	利用	23	24	先生	14	40	コミュニケーション	10
9	今	21	25	難しい	14	41	指導	10
10	病院	21	26	聞く	14	42	辞める	10
11	話	21	27	若い	13	43	取る	10
12	見る	19	28	主任	13	44	出る	10
13	重い	19	29	重心	13	45	色々	10
14	分かる	18	30	他	13	46	転勤	10
15	来る	18	31	話す	13	47	働く	10
16	一緒	17	32	違う	12			

次に、関係する語句を明らかにするのに共起ネットワーク分析の結果を図2に示す。

なお、共起ネットワークを作図する際には、図1と同様の設定を行った。

「育成をしてきた中で、保育士の成長を感じた出来事」の共起ネットワーク分析では8個のカテゴリーの表出が見られた。代表的なカテゴリーの特徴を以下に示す。

頻出語の1位の「保育」、2位の「言う」は、3位の「思う」、4位の「看護」などの語彙と結びついており、「保育を説明できる力」に関する言葉の集合が形成されていた。また、「話す」や「来る」、「指導」などの「指導者によるサポート」に関する言葉の集合が形成されていた。さらに、「車いす」や「相談」、「本人」などの「個別ニーズの把握と対応」に関する言葉の集合が形成されていた。



(図2) 「育成をしてきた中で、保育士の成長を感じた出来事」についての共起ネットワーク

5-3 「重症心身障害領域の保育士の専門性をどう考えるか」のインタビュー分析結果

「重症心身障害領域の保育士の専門性をどう考えるか」の質問に対するテキストマイニングで得た結果を、表3と図3に示した。KHcoder前処理の結果から、総抽出語数は13,877（使用数4,656）、異なり語数は1,502（使用数1,178）であった。表3は頻出150語の内、13回以上使われた語を記載した。

表3 「重症心身障害領域の保育士の専門性をどう考えるか」に関する頻出150語（13回以上使われた語を記載）

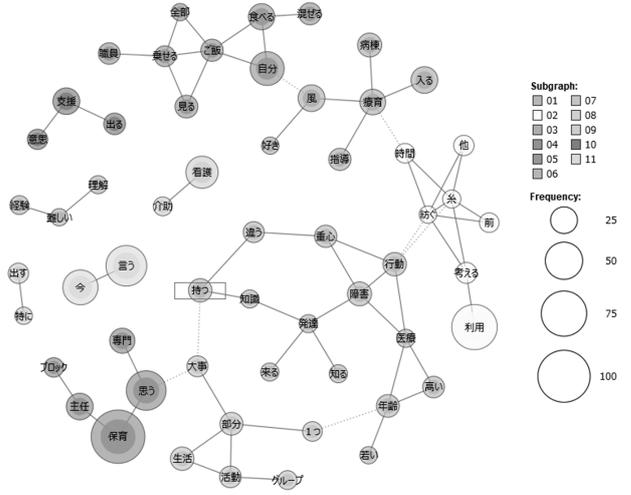
順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度
1	保育	106	17	専門	22	33	出る	16
2	人	75	18	障害	20	34	職員	16
3	利用	75	19	病棟	20	35	話	16
4	言う	60	20	関わる	19	36	違う	15
5	思う	57	21	行動	19	37	考える	15
6	今	44	22	持つ	19	38	乗せる	15
7	自分	41	23	生活	19	39	大事	15
8	看護	37	24	見る	18	40	意思	14
9	事	36	25	年齢	18	41	出す	14
10	支援	25	26	部分	18	42	他	14
11	主任	25	27	ご飯	17	43	1つ	13
12	入る	25	28	混ぜる	17	44	ブロック	13
13	風	25	29	指導	17	45	時間	13
14	出来る	24	30	重心	17	46	前	13
15	食べる	24	31	活動	16			
16	療育	23	32	高い	16			

次に、関係する語句を明らかにするのに共起ネットワーク分析の結果を図3に示す。

なお、共起ネットワークを作図する際には、図1と同様の設定を行った。

「重症心身障害領域の保育士の専門性をどう考えるか」の共起ネットワーク分析では11個のカテゴリーの表出が見られた。代表的なカテゴリーの特徴を以下に示す。

「年齢」や「行動」、「障害」などの「幅広い年齢や障害程度



(図3) 「重症心身障害領域の保育士の専門性をどう考えるか」についての共起ネットワーク

への対応”に関する言葉の集合が形成されていた。また、頻出語の3位の「利用」は「考える」、「時間」などの語彙と結びついており、“個別ニーズの把握”に関する言葉の集合が形成されていた。さらに、頻出語の1位の「保育」は、「主任」、「ブロック」などの語彙と結びついており、“団体としての研修や研鑽”に関する言葉の集合が形成されていた。

## 6. 考察

まず、「自分自身が成長できたと思える出来事」に対する共起ネットワーク分析の結果についてである。代表的なカテゴリーとして“他職種や保護者への発信力”、“個別支援計画”、“療育や日中活動”に関する言葉の集合が見られた。

そこから考えられることは、保育士を育成する側の立場の主任保育士自身が、療育活動や日中活動などの実践を通して学びえた力を、理論立てて他職種や保護者に対して発信していくことを経験しつつ、成長してきたことがうかがえる。また、保育実践と発信の根拠として、個別支援計画の作成、実践、評価に携わるといふことがあり、そこでの確かなアセスメント力が培われること、他職種の支援の方向性や内容なども理解しつつ、保育士としての協働の視点も強まり、連携力の強化にもつながっていることが推測される。

次に、「育成をしてきた中で、保育士の成長を感じた出来事」に対する共起ネットワーク分析の結果についてである。代表的なカテゴリーとして、“保育を説明できる力”、“指導者によるサポート”、“個別ニーズの把握と対応”に関する言葉の集合が見られた。

そこから考えられることは、保育士を育成する側の視点として、保育士が個別のニーズを把握し適切に対応できる力と、それらを含めた自らの保育実践を説明できる力を重要視していることが考えられた。重症児・者は反応の表出が微細であり、個々のニーズを読み取り、適切な支援につなげていくことは難しいことではあるが、この部分を丁寧に指導していくことが基本になると考える。そのうえで、その支援がなぜ必要なのか、保育士として大事に考えているのかを説明できるようになるということにつながっていくものと考えられる。主任保育士自身が自らの実践を理論立てて発信していくことで力をつけられたと考えているように、主任保育士が保育士育成をする場面においても、この点を重要視しているものと推測される。また、主任保育士による丁寧なサポートも重要であり、適切なタイミングで助言や見守り、励ましなどを行うことも欠かせないと考えられる。

次に、「重症心身障害領域の保育士の専門性をどう考えるか」に対する共起ネットワーク分析の結果についてである。代表的なカテゴリーとして、「年齢」や「行動」、「障害」などの“幅広い年齢や障害程度への対応”に関する言葉の集合、「利用」

や「考える」、「時間」などの利用者の“個別ニーズの把握”に関する言葉の集合、「保育」や「主任」、「ブロック」などの“団体としての研修や研鑽”に関する言葉の集合が見られた。そこから考えられることは、重症児者や保護者の方、つまり、利用者の個別ニーズを把握し、実践につなげていくことが基本であり、重要な部分としていふと考えられた。その部分の力をつけていくために、幅広い年齢や障害程度への対応の力が必要であるのだと考えられた。重症児者の年齢層が幅広いこと、障害程度も多様であることは、昨今の重症心身障害の入所施設では大きな課題となっている<sup>2)</sup>。それぞれのニーズを把握し実践する力を育むことは簡単ではないが、今後、それらのニーズの把握と実践のために保育士としてどのような力が必要なのかはさらに検討が必要であると考えられた。

これらのことにより、重症心身障害領域の保育士育成の課題としては、次のようなことが考えられる。

まず、保育士自身の課題として、「重症児者や保護者との直接支援の中から学ぶ」である。なぜならば、保育士は多様な業務の中でも、重症児者や保護者の方など、個々の利用者への直接支援を業務の軸として捉え、そこを出発点として自らの保育士としての関わりを言語化し、発信できる力をつけていくことが最重要課題ではないかと考えるからである。自分たちの業務の発信は、日々の重症児者や保護者とのかかわりの中での気づきから生まれ、それを出発点としてニーズの分析や他職種との協働体制につながっていくものとする。

現在、重症心身障害領域の保育士は、その支援の対象が乳幼児から成人、高齢者と幅広い。平成20年の「障害児支援の見直しに関する検討会報告書」<sup>3)</sup>において、「保育士」が「重症心身障害の方たちの児童から成人に至るまでの継続支援を支える専門職」として示されているからという根拠だけでなく、生涯発達の視点からも、重症児者に対して、保育士の関わりが必要である根拠を保育士自身がしっかりと見出さなくてはならないと考える。

次に「サポート体制としての主任保育士の指導力強化」である。なぜならば、重症児者や保護者の方など、利用者との直接支援を通して、そこに関わる保育士の気づきや変化を的確に捉え、助言、見守り、励ましなどができる、指導者としての主任保育士の存在は欠かすことはできないと考えるからである。重症心身障害領域に限らず、医療の支援を要する子どもの保育の現場においては、保育士を指導する立場に保育士以外の職種、看護師や医師が置かれているところも多いのが現状<sup>4)</sup>である。しかし、経験と学びを積み重ねた同職種である主任保育士の直接的、間接的な指導は、自らの保育観の形成に大きく影響を与えるものではないかと考えられる。そのためにも、主任保育士の学びの機会をさらに充実させ、指導者の育成にも力を注ぐことが重要であると考えられる。

この研究のインタビューの対象となった国立病院機構の保育士の団体は、2007年に全国保育士会の倫理綱領を採択し、自らの職務において保育士が自らの役割を自覚できるように解説文を加えた書籍を刊行し、さらに社会情勢の変化に合わせて改訂も行っている<sup>5)</sup>。その内容について片桐は、時代のニーズを鑑みながらも、保育士としての行動指針や行動規範を踏まえつつ、保育士の自らの役割の明確化が必要であると述べている<sup>6)</sup>。今回の研究の結果は、過去に採択した倫理綱領と解説文を加えた書籍と合わせ、重症心身障害領域の保育士の専門性の育成に資するものとする。

## 7. おわりに

本研究では、重症心身障害領域の保育士の人材育成の課題を探ることを目的に、重症心身障害の入所施設に関わる保育士を指導する立場の保育士にインタビュー調査を実施し、得られた結果をテキストマイニングによって分析した。その結果、保育士育成の課題として、保育士は重症児者や保護者への直接支援を基盤としつつ、自らの保育を言語化し発信できる力をつけられるよう、指導者が支える体制を強化することの重要性が示唆された。

## 8. 謝辞・付記

本研究は第48回日本重症心身障害学会学術集會にポスター発表したものを加筆修正した。この研究に際し、快くご協力いただきました前独立行政法人国立病院機構全国保育士協議会会長の故片桐有佳氏、並びに同協議会主任保育士の皆様へ深謝いたします。

---

### 参考文献

- 1) 鹿島 房子 (2021). 重症心身障害領域に携わる保育士の専門性に関する研究：全国国立病院機構に勤務する重症心身障害領域の保育士を対象としたアンケート調査に基づいて、聖徳大学研究紀要 聖徳大学短期大学部第53号, 17-23.
- 2) 医療型障害児入所施設の役割と課題について1 発達支援機能 自立支援機能 について, 令和元年8月9日 公益社団法人日本重症心身障害福祉協会, <https://www.mhlw.go.jp/content/12204500/000536661.pdf>, 2023.10.23アクセス.
- 3) 厚生労働省 (2008). 障害児支援の見直しに関する検討会報告書.p18. <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/07/dl/s0722-5a.pdf>, 2023.8.27アクセス.
- 4) 土屋 昭子, 吾田 富士子, 他 (2019). 医療保育専門士の業務実態：活動フィールドによって異なる専門性の解析のために, 医療と保育 / 日本医療保育学会編集委員会編, 17.6-15.
- 5) 柏女 霊峰 (2018). 「医療現場の保育士と障がい児者の生活支援 - 三訂版 -」独立行政法人国立病院機構全国保育士協議会倫理綱領ガイドブック改訂版作成委員会編, 生活書院.
- 6) 片桐 有佳, 古賀 聖子 (2019). 「医療現場の保育士と障がい児者の生活支援 - 三訂版 -」を作成して, 日本重症心身障害学会誌44 (2), 486-486.

